

毎年2万カップルが結婚するが、その7割の離婚カップルもいる

# 「私たちの国際結婚は『マッサン』とは大違いでした」

「外国人妻」の出身地は1位中国、2位フィリピン。男性の県別では1位岐阜、2位愛知の理由とは？



クラクアップを迎え、笑顔を見せるシャーロット(左)と玉山

朝ドラのようには醸成できない!?

『マッサン』の時代は珍しかった国際結婚も、平成の世では当たり前になった。しかし、実際の国際結婚の生活は、ドラマで描かれた以上に困難の連続だという。「料理」「宗教」「教育」といったそれぞれの文化のちよつとしたズレが、幸せだったカップルの間に大きな亀裂を生んでしまう。

## 男女で異なるパートナーの出身地

今年28日の放送で大団円を迎える朝ドラ『マッサン』では、「箸も使えない外国人に亀山家の嫁は務まらん！」という姑・早苗(泉ピン子)の嫁イビリや戦時中の外国人バッシングなどが描かれた。幾多の困難にもめげず愛を深めるマッサンこと亀山政春(玉山鉄二)と妻・エリー(シャーロット・ケイト・フォックス)の姿に視聴者は涙し、連日20%を超える高視聴率を記録した。ドラマの終わりに出てくるのが、視聴者から寄せられた幸せそうな国際結婚カップルの写真だ。それを見るとマッサン夫婦のように

日本人と欧米人の夫婦というパターンが多い。しかし、日本人男性と白人女性の夫婦は少数派だ。2013年の厚労省人口動態調査によれば、日本人の結婚の中で国際結婚の占める割合は、30年前(1983年)の1.4%から3.3%に倍増している。件数は年間2万1488件で、その内訳は日本人男性と外国人女性の結



婚が1万5442件(71.9%)、日本人女性と外国人男性の結婚が6046件(28.1%)となっている。日本人男性の国際結婚率は全国平均で2.3%。県別で最も多いのは岐阜県の4.0%で、愛知県、千葉県、東京都、長野県と続く。上位は例年ほとんど変わっていない。

一方、日本人女性の国際結婚率は全国平均で0.9%。最も多いのは沖縄県の3.2%で、東京都、大阪府、京都府、神奈川県と続く。

●イラスト/スズキサトル

国籍別に見ると、日本人男性に嫁ぐ外国人妻の最多は中国で40.5%。以下、フィリピン20.2%、韓国・朝鮮17.7%、タイ6.4%となっている。

日本人女性と結婚する外国人男性は韓国・朝鮮の27.9%がトップ。アメリカ19.2%、中国11.9%、ブラジル4.7%が続く。なお「韓国・朝鮮」には在日コリアンが含まれている。そうした性別や地域による国際結婚の傾向について、ニッセイ基礎研究所の久我尚子・准主任研究員が解説する。

「自動車工場が多い岐阜、愛知では労働者として訪日する外国人女性と日本人男性が結婚する

ケースが多いと思われます。農業県の長野県では、過疎化が進んで若い女性が少ないため、外国人女性を妻に迎えるケースが増えていることが大きな理由ではない

## 「小学生の娘に『オカアサン』のフィリピン妻

結婚件数もさることながら、それ以上に驚かされるのが離婚件数の多さだ。前出の厚労省調査によると、国際結婚したカップルの1年間の離婚件数は1万5196組。毎年2万組以上の国際結婚カップルが生まれる一方で、その7割に相当する数のカップルが離婚している。日本人同士のカップルと比較しても倍近い比率である。

国際離婚・相続に詳しい柴田正人弁護士がいう。「近頃では国際離婚の相談が増えています。私が担当

でしょうか。

一方、日本人女性は相手の国籍が幅広い。職場だけでなく、海外で出会って恋愛結婚したケースも多いと考えられます」

した中では結婚生活4〜5年で別れる夫婦が多い。長く生活を共にする中で文化や慣習の違いが浮かび上がって修復不可能になるからではないか」

フィリピンパブで出会ったフィリピン人女性と結婚したA氏(44)が話す。

「フィリピンでは仕事より家族を優先するのが当たり前。『仕事で出張する』と説明しても、『家を空けてまで何しに行くんだ』とガミガミいわれます。仕事中に電話に出ないと浮気を疑われるし、帰宅時間が遅いと激怒する。仕事人間の多い日本特有の、午前様を無理できず、『こんな時間まで働いているわけがない』というのが彼女の感覚なんです」



『週刊ポスト』次号(4月3日号)は3月23日(月)発売です 一部地域で発売日  
が異なります

A氏が青ざめたのは残業  
が続いたある日のことだっ  
た。妻が突然、会社に現わ  
れたのだ。  
「残業ばかり。なんで  
夫を家に帰さないんだ」と  
すごい剣幕で怒鳴り込んで  
きたんです。啞然とする上  
司に謝りながら何とか妻を  
落ち着かせましたが、上司  
からは「愛があつてうらや  
ましいねえ」と今も嫌味を  
いわれ続けています」  
同じくフィリピン人を妻  
に持つB氏(45)はこんな  
話を明かす。



「フィリピンでは当たり前  
よ」というのですが、ガラ  
ガラと食べては飲み、深夜  
までタガログ語でしゃべり  
続ける。その後、部屋で雑  
魚寝して朝帰るといふパタ  
ーンです。壁は落書きだら  
けになるわ、トイレを汚さ  
れるわで大弱りです。僕は  
仕事を理由にしてほとんど  
参加しませんが、中学生の  
息子が心配です。時々、妻  
と一緒に深夜までパーティ  
ーに参加しているんです」  
現在の両国関係と同じく、  
家庭内でも「日韓関係」が  
ギクシャクしていると嘆く  
のは、知人の紹介で知り合  
った韓国人男性と結婚した  
Cさん(28)だ。

「結婚前は優  
しかったのに、  
いざ結婚する  
と夫は「妻は  
家を守るもの  
だ」という考  
えを押し出す  
ようになりま  
した。しかも  
料理や文化も  
「韓国が一番  
だ」と上から

目線。日本人男性では考え  
られない亭主閑白ぶり、  
子供が生まれてもこれが続  
くかと思うと先が思いやら  
れません」  
食文化も「国際紛争」の  
火種だ。海外旅行中に日本  
食が恋しくなった経験があ  
る人は多いだろうが、国際  
結婚ではそんな状態が我が  
家でも続く。  
1年前にタイ人女性と結  
婚したD氏(48)はため息  
まじりに話す。  
「妻が作る料理にはナンプ  
ラーなどクセの強い調味料  
がどつきり。得意料理のカ  
レーはとにかく辛い。週に  
何度も食卓に登場する。激  
辛グリーンカレー」に私も  
同居する老親も閉口してい  
る。私は夜中に一人隠れて  
レトルトカレーを温めて食  
べています」  
旅先で知り合ったマレー  
シア出身の夫を持つ青森県  
在住のEさん(43)は夫婦  
の「温度差」に悩んでいる。  
「とにかく夫は寒がり。青  
森の冬は確かに寒いですが、  
『いつも故郷の気分でした  
い』という夫はエアコンを

30℃以上に設定して、短パ  
ン・Tシャツ姿です。電気  
代がバカにならず、室内の  
温度と裏腹に僕は極寒です」  
日本人夫婦でも採める  
「子供の教育」はなおさら  
衝突しやすい。アメリカ人  
の夫との間に小4の息子が  
いるFさん(43)が怒りを  
露わにする。  
「私は息子に中学受験をさ  
せたいのに、夫は『そんな  
の必要ない。息子の自由に  
させるべきだ』の一点張り。  
子供の将来を考えていない  
ようにしか思えず、学校で  
は他の子たちがみんな受験  
するのに、学習塾に通わせ  
てもらえない息子がかわい  
そうです」  
育て方には国の文化が色  
濃く現われる。フィリピン  
人女性と結婚し現在小3の  
娘がいるG氏(41)が語る。  
「フィリピンでは女の子に  
対する褒め言葉が『セクシ  
ー』なんです。女の子が生  
まれるとピアスの穴を開け  
る風習があり、小学生や中  
学生で茶髪や金髪にするの  
は珍しくない。日本では信  
じられませんが、母親が娘

にマニキュアを塗ってあげ  
るんですよ。日本の学校で  
ピアスなんて開けたら大問  
題ですよ。日本では大人に  
なるまでダメだと言いつ聞か  
せましたが、妻は不満を隠  
さない」  
相手方に「目的」がある  
ケースも少なくない。在住  
外国人の支援団体職員が明  
かす。  
「アジアの貧しい地域の女  
性の中には、金銭や日本国  
籍取得目当てで結婚する者  
も多い。200万円程度で  
農村の日本人に外国人嫁を  
斡旋する業者もいます。一  
方で日本の年配男性には、  
若くて働ける嫁が欲しいと  
いうニーズがある。お互い  
に思惑だけの結婚が長続き  
するはずもなく、多くが数  
年で破綻する」  
多くの国から見て、日本  
は今も「黄金の国」だとい  
う意識は必要だ。この職員  
が続ける。  
「そうした結婚では女性の  
本国の家族への送金が婚姻  
の条件になっていることが  
多いです。夫は妻の求めに応

じて送金する度、『夫婦円  
満の潤滑油だ』と自分に言  
い聞かせている。アジアへ

### 「雪かき」に耐えられず帰国

言葉や価値観が違っても、  
本人同士が愛し合っている  
なら、文化の違いや困難を  
乗り越えられるかもしれない。  
だが結婚は恋愛と違っ  
て当人だけの問題ではない。  
農家に嫁いだケースでは、  
夫の両親と同居するケース  
が今も多い。中国から25歳  
年下の妻を迎えた山形県在  
住の農家のH氏(46)は嫁  
姑問題に弱りきっている。  
「田舎では車を運転できな  
いと夕食の買い物すらまま  
ならない。しかし妻が運転  
免許を取得しようにも、言

の送金手数料が安い都内の  
外資系銀行をわざわざ選ん  
で送金している人もいます」  
葉の壁があつて学科試験に  
合格できない。高齢の母が  
「買出しもできないなん  
てまったく、使えない子だ  
ね」と厳しく当たるので  
妻が不憫でなりません」  
嫁ぎ先の風習や環境に音  
を上げることもある。かつ  
てフィリピン人の妻と暮ら  
していた新潟県在住のI氏  
(58)が話す。  
「初めて体験する寒さと雪  
に、妻は愕然としていまし  
た。豪雪地帯で生まれ育っ  
た母親は、『これしきのこ  
とで弱音を吐くな』と嫁を

厳しく指導し  
ていました。  
特に辛そうに  
していたのが、  
母にいわれて  
日課にされた  
雪かき。重労働に耐えきれ  
ず、妻はフィ  
リピンに帰国  
してしまいま  
した」  
職場で知り  
合ったフランス人男性と  
結婚したJさん(28)が語  
る。  
「夫は仕事がなくとも平気  
で家でヘラヘラしている。  
男女平等意識が強いフラン  
スでは旦那が妻を養うとい  
う考え方が薄く、ヒモ気質  
の人が多い。そんな夫に怒



ったのが私の父でした。家  
にやって来て、『男なら働  
いて女房をしっかりと養っ  
たらどうなんだ!』『お前  
の国に甲斐性という言葉は  
ないのか!』と怒鳴り散ら  
したんです」  
日本語がよくわからない  
夫だが、義父の剣幕に固ま

ってしまった。  
「それでも仕事は長続きし  
ない。父からは『あんな男  
とは早く別れろ』といわれ  
ていますが、欧米人特有の  
フレンドリーさで母には可  
愛がられているんです。父  
にはそれがまた気に入らな  
いみたいで……」  
国際結婚では、当人にと  
っては当たり前な習慣がき  
っかけで不和の原因になり  
かねない。「マツサン」で  
はエリィが日本の料理も言  
葉もマスターして夫を支え  
ていたが、現実はその上手  
くはいかない。2人の愛を  
永遠のものにするためには、  
お互いの国の文化や考え方  
を理解する寛容な心が必要  
になるが、そのハードルは  
低くはないようだ。

必見!  
これが最強のラウンド  
テクニク!

## プロゴルファーも知らない 優勝請負人キヤデイの シークレット・メモ

藤田寛之、イボミ、谷口徹、田中秀道、上田桃子らを優勝へ導いた現役最強のキャディが  
アマチュアゴルファーに贈る、ゴルフが上手になる! ゴルフ観戦も楽しくなる!  
新しい視点のゴルフ本登場。読めばスコアアップ間違いなし!

すべての  
ゴルファーへ贈る  
スコアアップ術



現役最強プロキャディ 清水重憲 著  
●定価:本体850円+税  
978-4-07-298643-1  
主婦の友社 www.shufunotomo.co.jp  
0120-916-892